

英米文学論文用の書式細則

改定 2023 年度細則第 1 号別紙第 3 (2023 年 4 月 26 日)

修正 2024 年 6 月 22 日編集委員長職権により修正

改正 2024 年度細則第 1 号 (2025 年 3 月 22 日)

改正 2025 年度規程第 1 号 (2026 年 3 月 7 日)

『日本英語英文学』の論文書式について、基本的には諸先生方が普段用いられているスタイルが尊重できるような緩やかなものを考えておりますが、全体の統一という観点から、また経費の節減という事情もございまして、以下の諸点を共通書式として定めております。以下、「投稿規程」と重複する部分もございしますが、どうぞご了承下さい。

1. 書式、字体、枚数など

	英語論文	日本語論文
用紙・余白	<ul style="list-style-type: none">MS Word で A4 判の用紙に作成天地左右に 2.5 cm (1 インチ) の余白1 ページに 25 行の設定	<ul style="list-style-type: none">英語論文に同じ横書き
字体・大きさ	<ul style="list-style-type: none">本文、注、参照文献のいずれも、字体は Century で、12 ポイントの活字を使用	<ul style="list-style-type: none">本文、注、参照文献のいずれも、和文は MS 明朝、欧文は Century で、12 ポイントの活字を使用句読点は、「、」「。」を使用
原稿の長さ	<ul style="list-style-type: none">論文、書評論文は 25 ページ以内研究ノート、書評は 13 ページ以内図表、注、参照文献もこのページ制限内に収める	<ul style="list-style-type: none">英語論文に同じ
機種依存文字	<ul style="list-style-type: none">丸付き数字、全角ローマ数字、単位記号などを含め、機種依存文字は使用しないどうしても使用する必要がある場合には、事前に相談する	<ul style="list-style-type: none">英語論文に同じ
英数字、丸カッコ、コンマ、コロン、セミコロン、ピリオド	<ul style="list-style-type: none">全て半角文字を使用コンマ、コロン、セミコロンの後には、半角 1 つ分のスペースを空ける。前にはスペースを空けない省略符のピリオドの後には、半角 1 つ分のスペースを空ける。文末のピリオドの後には、半角 2 つ分のスペースを空けて次の英文を始める丸カッコの前後には、半角 1 つ分のスペースを空ける	<ul style="list-style-type: none">全て半角文字を使用引用に於ける英文は、英語論文の書式に準じるコロンを用いた場合、その後ろには半角 1 つ分のスペースを空ける日本語の地の文に於いては、カッコの前後にはスペースを空けない。但し、文献に言及する際は、出典を示すカッコの前に半角 1 つ分のスペースを空ける。参考文献表でも同じ

		<ul style="list-style-type: none"> ・欧文と和文の境目には、スペースを空けない
一重カギカッコ(「 」)、二重カギカッコ(『 』)、ヤマカッコ(< >)、スミツキカッコ(【 】)、その他の特殊括弧	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には使用しない ・どうしても使用する必要がある場合には、全角文字を使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・全角文字を使用
原稿の 1 ページ目	<ul style="list-style-type: none"> ・論文の題目は、太字で中央揃え ・3 文字以下の前置詞、接続詞、冠詞を除く全ての語頭を大文字にする (例: During, on, the, When) ・題目の下は、1 行アケで本文を始める ・氏名、所属、謝辞などは記さない (これらは、表紙に記載) 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語論文に同じ
空行及びインデント	<ul style="list-style-type: none"> ・各節、注、参考文献、例文の前後には、空行を挿入する ・パラグラフの冒頭は、半角スペース 5 つ分のインデント 	<ul style="list-style-type: none"> ・各節、注、参考文献、例文の前後には、空行を挿入する ・段落の冒頭は、全角スペース 1 つ分の字下げ ・引用に於ける英文は、英語論文の書式に準じる
見出し番号	<ul style="list-style-type: none"> ・Introduction は、(0 節からではなく) 1. Introduction のように、1 節から始める ・小節番号は、3.1. Strict Identity のように、数字の後にピリオドを置く ・節、小節のタイトルは、左寄せを原則とする。但し、算用数字或いはローマ数字のみで記す場合は、中央配置とし、ピリオドを置かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめに」或いは「序論」は、(0 節からではなく)「1. はじめに」のように、1 節から始める ・小節番号は、「3.1. 代案」のように、数字の後にピリオドを置く ・節、小節のタイトルは、左寄せを原則とする。但し、算用数字或いはローマ数字のみで記す場合は、中央配置とし、ピリオドを置かない
人名・作品名など	<ul style="list-style-type: none"> ・論文内でキーとなる人物に言及する際、初出時に生歿年を付記する 例: Herman Melville (1819-1891) ・作品名、雑誌名などは、初出時に発表年を付記する 例: <i>The Magic Barrel</i> (1958) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の人名は、初出の箇所では、和名+原名で記す。また、論文内でキーとなる人物の場合、初出時に生歿年を付記する 例: ハーマン・メルヴィル (Herman Melville, 1819-1891) ・外国の作品名などは、初出の箇所では、和名+原名で記し、発表年を付記する

		<p>例：『魔法の樽』（<i>The Magic Barrel</i>, 1958）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の人名、作品名、雑誌名などについても英語論文に準じる
注(Notes)	<ul style="list-style-type: none"> ・<i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> の最新版に従う ・Notes は、References の前に入れる ・脚注形式ではなく、尾注形式とする ・本文と同じ書式で記載する ・出版年などの情報は、References で明記し、Notes は必要最小限の情報に留める ・注番号は、punctuation の後に入れる ・注番号は、カッコなどを付さず、上付き <p>例：In the process of debating,¹ we are able to learn logical thinking and critical thinking.²</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> の最新版に準ずる ・注は、参照文献の前に入れる ・脚注形式ではなく、尾注形式とする ・本文と同じ書式で記載する ・出版年などの情報は、参照文献で明記し、注は必要最小限の情報に留める ・注番号は、句読点の後に入れる ・注番号は、カッコなどを付さず、上付き <p>例：……と考えられる。¹しかし、Iwamoto (2015)では、²……</p>
参照文献 (References)	<ul style="list-style-type: none"> ・<i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> の最新版に従う ・References には、本文中に引用・言及した文献のみを記載する ・アルファベット順に並べる ・雑誌は巻号、ページを明記する 	<ul style="list-style-type: none"> ・<i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> の最新版に準ずる ・参照文献には、本文中に引用・言及した文献のみを記載する ・欧文、和文が混在する場合は、別々に分けずに、混在させてアルファベット順に並べる。和文のみの場合は、五十音順で並べる ・雑誌は巻号、ページを明記する ・和文文献については、出版社の地名は省略する
米式・英式	<ul style="list-style-type: none"> ・綴りや punctuation の米式・英式は問わないが、原稿内に一貫性を保つ ・投稿に際しては、ネイティブ・スピーカーのチェックを事前に必ず受ける 	

2. 引用原文

投稿時には、引用原文と和訳（自訳、他訳は問わない）を併記して下さい。

- ・掲載時に引用原文のみで和訳をつけない場合も、投稿時には和訳を付し、引用毎に「和訳なし（原文のみ）」と朱筆して下さい。この場合、和訳は規定枚数に含まれません。
- ・掲載時に原文を省略し、和訳のみを記載する場合も、投稿時には原文を付し、引用毎に「原文なし（和訳のみ）」と朱筆して下さい。この場合、原文は規定枚数に含まれません。

- ・掲載時に原文と和訳を併記する場合は、引用毎に「併記」と朱筆して下さい。この場合、いずれも規定枚数に含まれます。
- ・引用する際には、論の展開に最も適したもの（原文・自訳・既存訳／単独・併記）を用いるように心がけて下さい。
- ・査読終了後、最終原稿を提出する際には、掲載希望の原文・和訳のみに修正してから提出して下さい。

3. 参照文献の例（日本語論文）

以下は、和文文献の参照文献リストの書式です。

〈学会誌掲載論文〉

著者名「論文名」『学会誌名』巻号（発行元，出版年）掲載ページ。

著者名「論文名」『学会誌名』巻号（発行元，出版年）掲載ページ，URL（閲覧年月日）

- ・項目が2行以上に及ぶ場合、2行目以降を半角スペース5つ分インデントする。
- ・同一著者による複数文献の表記は、欧文は書名論題のアルファベット順、和文は書名論題の五十音順とし、著者名は「---」を用いて繰り返さない。

本荘忠大「アフリカ先住民表象に見るヘミングウェイのアフリカ」『ヘミングウェイ研究』第9号（日本ヘミングウェイ協会，2008年）29-38頁

---，「ヘミングウェイと西部のメキシコ人——『賭博師と尼僧とラジオ』に見るメキシコ人表象と革命運動」『日本英語英文学』第31号（日本英語英文学会，2021年）99-121頁，<https://jaell.org/wp-content/uploads/2022/04/31Honjo.pdf>（2023年3月6日閲覧）

〈単行本中の論文〉

著者名「論文名」『書名』編者（出版社，出版年）掲載ページ。

本荘忠大「ヘミングウェイと禁酒法」『アーネスト・ヘミングウェイ——21世紀から読む作家の地平』日本ヘミングウェイ協会 編（臨川書店，2011年）160-173頁

〈単行本、著書〉

著者名『書名』版（出版社，出版年）【初版の場合は、「版」の表記は不要】

鈴木透『実験国家アメリカの履歴書——社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』第2版（慶應義塾大学出版会，2016年）

植村洋『ロックを「読む」』（弦書房，2005年）

〈単行本、訳書〉

著者名『邦訳名』訳者1名ほか 訳（出版社，出版年）

レスリー・A・フィードラー『アメリカ小説における愛と死』佐伯彰一ほか 訳（新潮社，1989年）

〈学位論文〉

著者名「論文名」博士論文（学位授与機関）授与年.

本莊忠大「人種的視点から見たヘミングウェイ像とその作品群」博士論文（広島大学大学院文学研究科）
2002年

〈事典〉

編者（監修者）名『書名』（出版社，出版年）

今村楯夫，島村法夫 監修『ヘミングウェイ大事典』（勉誠出版，2012年）

〈事典中の項目〉

著者名「項目名」『書名』編者（監修者）名（出版社，出版年）掲載ページ.

本莊忠大「アフリカ原住民」『ヘミングウェイ大事典』今村楯夫，島村法夫 監修（勉誠出版，2012年）
801-803頁

附 則

この細則は、『日本英語英文学』第33号より適用する。

附 記

この細則は、2023年度規程第3号による投稿規程の改正が反映されていなかったため、2024年6月22日編集委員長職権により修正した。この修正は、同日より施行した。

附 則（2024年度細則第1号）

この細則は、『日本英語英文学』第35号より適用する。

附 則（2025年度規程第1号）

この改正は、2026年4月1日から施行し、本誌第36号より適用する。 ■